



ポータビリティの力：

今すぐクラウドネイティブ
に移行することによって得
られる 5 つのビジネス上の
メリット

開発者がデータセンター間やクラウドプロバイダー間でワークロードを移動する方法とタイミングを選択できるようにすることで、コスト効率を改善し、ビジネスのアジリティを高めることができます。

適切なクラウドに適切なワークロードを マッチングさせる

クラウドネイティブ戦略は、単一のクラウドプロバイダーのプラットフォームへの依存から組織を解放します。開発者は拠点間やプロバイダー間でワークロードを移動できるようになり、コンテナ、マイクロサービス、サーバーレスなどのポータブル・クラウドコンピューティング・アーキテクチャを最大限に活用できるのです。

将来の成長を妨げるのではなく、成長を実現できる、クラウドアーキテクチャを選択する必要があります。そのため、開発者は、アーキテクチャや展開の決定を再検討して、最も影響力のある ROI を実現するクラウドプロバイダーにワークロードを移動させることのできる、柔軟性を持つ必要があります。

ここでは、クラウドネイティブ戦略の一環としてポータビリティを取り入れることによって得られる 5 つの魅力的なビジネス上のメリットを紹介します。

01

クラウド支出の最適化

価格設定と課金が複雑で分かりづらいため、企業はクラウドへの支出を把握し配分するのに苦労する場合があります。その結果、コンピューティング、ストレージ、データベース、その他の不要なサービスや使用することのないサービスのコストを負担することとなり、正確に予算を設定することが難しくなります。

また、単一のクラウドプロバイダーに囚われている場合には、専門家を雇用して維持し、その専用の環境でスタッフをトレーニングする必要があります。これは、他のクラウドプラットフォームには転用できないスキルです。プロバイダーに自社のクラウド戦略を決定させてはなりません。オープン・ソース・ツールをベースにした転用可能な開発者スキルがあれば、コストを削減して適切に管理し、顧客に効率性を提供することができます。



02

顧客体験の改善

顧客は、可能な限り最高の顧客体験を実現する一貫性と即時アクセスを求めています。企業がこれらのニーズを満たせないと、顧客は競合他社でそれを満たそうとします。

クラウドネイティブの開発原則を取り入れることにより、チームは主要なワークロードを、世界中のどこにいても、顧客の近くのクラウドに移行できます。また、ポータビリティを確保することで、企業はクラウドテクノロジーやリソースを迅速に解放して再割り当てし、たとえば新しい市場、国、地域への参入を迅速化することができます。



03

クラウドのアジリティの向上

データとワークロードのすべてまたは大部分が 1 つのクラウドプラットフォームに組み込まれている場合、ビジネスの成長の可能性を阻害するおそれがあります。たとえばプラットフォーム固有のツールを必要とする場合や、プロバイダーのサポートや拠点がすべての地域に及んでいない場合など、クラウドプロバイダーの選択によって制限が生じている場合、組織の柔軟性が損なわれます。クラウドネイティブの開発により、チームはクラウドリソースをスケーリングし、必要に応じて再度割り当てできるため、顧客の好みや市場の状況の変化に合わせてほぼリアルタイムで迅速にビジネスを適応させることができます。

また、ワークロードがポータブルであれば、プラットフォーム中心のプロバイダー制御を新しい地域に複製するために時間とリソースを消費するのではなく、クラウドプロバイダーと連携し、エッジで統一されたセキュリティ制御を活用することができるのです。自社のセキュリティ体制だけでなく、顧客のセキュリティも強化されます。



04

クラウド制御の回復

顧客と自社にとって最適なアクションを決定するためには、コストの透明性、パフォーマンス、グローバルプレゼンスを備えたクラウドパートナーが必要です。そのような知見を利用することで、情報に基づいて変化を起こすことができます。たとえば、常にパフォーマンスニーズを満たす目的であれば、より大量のデータを処理するワークロードを低コストのプロバイダーで実行できます。さらに、低レイテンシーとデータ主権要件の適合が求められる場合には、別のクラウドプロバイダーを選択することができます。

05

クラウドリスクの緩和

ビジネス、技術、ローカリゼーション、および規制に伴うリスクを緩和することによって、自社（および顧客）の潜在的なリスクを抑えることをご検討ください。プラットフォーム中心のプロバイダーに囚われている場合、そのベンダーの価格決定、プライバシーポリシーの変更、グローバルプレゼンス、およびサービスアップグレードに依存することとなります。また、単一障害点（Single Point of Failure）によるサービス停止が発生する可能性があります。それに対し、分散型クラウドは優れた耐障害性をもたらし、ダウンタイムのリスクを最小限に抑えます。

国や地域のデータ主権規制は変化するものであり、企業はその要件を満たすようにいつでもクラウドアーキテクチャを調整できなければなりません。ポータビリティを確保すれば、クラウドベンダーがニーズを満たしていない場合でも、再交渉して関係を維持し、特定のワークロードに別のベンダーを選択することができます。

Akamai の役割

信頼性とコスト効率に優れた Akamai のクラウドコンピューティング・サービスを利用することで、開発者は、技術的およびビジネス的に合理的であればどんな場合でもポータブルワークロードを実現または構築できます。好みのツールやテクノロジーだけでなく、Akamai の **アプリマーケットプレイス** で提供されている、構築済みのパッケージも使用できます。顧客が求めるパフォーマンスニーズの変化やビジネス要件に応じて、最適なクラウドにワークロードを展開することが重要です。開発者は Akamai のクラウドコンピューティング・サービスを無料で試すことができます。ご登録と無料のクラウドクレジットの受け取りのため、貴社開発チームにこちらの **リンク** をお送りください。

その他のリソース

世界のどこにいても、適切なクラウドを使用して適切なワークロードを配置するために、Akamai のクラウドコンピューティング・サービスがどのように役立つかについて、アナリスト、お客様、パートナーの意見をご覧ください。

研究調査：クラウドのグレートリセット

Forrester Research のレポート（Akamai が委託）では、アプリケーションの構築方法がどのように変化しているか、それをサポートするためにクラウドアーキテクチャをどのように変更する必要があるかについて、数百人のグローバル IT リーダーに対して調査を実施しました。

お客様事例：業界をリードするゲーム会社がプレイヤーの快適なゲームプレイを維持

Akamai は、ビデオゲームのパイオニア、イノベーター、リーダーである Digital Extremes 社にリアルタイムのサービスと保護を提供しています。

お客様事例：ポータビリティは企業や開発者が再びクラウド戦略の舵を握る上で役立つ

Zolvit 社は、企業が政府に対するコンプライアンスを確立・維持できるよう支援する、大規模サービスプラットフォームです。同社は Akamai のクラウドコンピューティング・サービスの活用により、クラウドコストを 50% 削減しました。

パートナー事例：HarperDB はどのように低レイテンシーを重視しているのか
分散型アプリケーションプラットフォームである HarperDB 社は、Akamai とともにクラウドコンピューティングに取り組み、顧客のクエリー応答時間を 100 ミリ秒も短縮しました。

パートナー事例：イノベーションをエッジへ

グローバルなデータネットワーク企業 Macrometa 社の CEO は、Akamai のクラウドコンピューティング・サービスにより、大規模なリアルタイム・データ・アクセスの「レイテンシーが完全に解消されている」と述べています。

クラウド投資利益率の最大化：5 つの質問に答える

貴社のワークロード戦略はクラウド ROI の向上に役立っていますか？ 5 つの質問をご検討ください。